

## 加齢による上部消化管の形態変化と食欲不振、低栄養状態との関連に関する研究 -加齢による免疫環境の変化と食欲不振、低栄養状態との関連に関する研究-

### 1. 研究の目的と意義

高齢の方では、癌などの合併がないにもかかわらず、食欲が低下して体重が減少し、栄養状態が悪くなることがあります。このような方は、しばしば肺炎を併発するなど、ますます体力が低下し、寝たきりとなることもあります。

食欲が低下する要因としては、加齢による胃腸の動きの悪化や免疫環境の変化などがあげられています。しかしながら、主にどの要因が高齢の方の食欲不振に関与しているのかは解明されていません。そして、その改善策も乏しいのが現状です。

この研究の目的は、加齢による胃腸の動きの衰え、免疫環境の変化と食欲不振の関連を詳しく調査して、主な要因を突き止め、それに対する対策（薬剤、生活習慣など）を立てることにあります。

### 2. 研究の方法

胃カメラ検査により、胃に病気があるかどうかを調べます。その際に、胃粘膜の組織の一部を採取して顕微鏡で胃炎の程度や胃の病気に強く関与しているピロリ菌感染の有無を調べます。また、10mlほどの血液を採取して、ピロリ菌の抗体価を測定、ピロリ菌感染の有無を再確認するとともに、胃腸の働き、食欲などに関係するホルモンやサイトカイン・ケモカインなどの免疫物質の濃度を測定します。さらに、治療中の病気、服用薬などに関する問診票、栄養状態に関するアンケート調査を実施します。

これらより、食欲不振と胃炎の程度、ピロリ菌感染の有無、ホルモン・免疫物質との関連を詳しく調べます。当施設ではホルモン・サイトカイン・ケモカインの測定を担当します。

研究の過程では、保存血清には個人が特定できないように番号をつけ、その他のデータもその番号により取り扱いますので、個人情報の機密性に問題はありません。

年間 50 名程度の方を対象として研究を行う予定です。

### 3. 研究機関

国立長寿医療研究センター：	胃カメラ検査、血液採取、問診・アンケート調査の実施
名古屋大学医学部保健学科：	ホルモン・サイトカイン・ケモカイン測定
名古屋大学医学部附属病院：	小腸粘膜の変化、小腸の運動機能の解析(異なる対象者)
北海道大学大学院薬学研究院：	食欲ホルモンに関する基礎的研究

### 4. 苦情等の連絡先

名古屋大学医学部保健学科 検査技術科学専攻 基礎検査学講座 石川哲也

住所：名古屋市東区大幸南一丁目 1 番 20 号

電話番号：052-719-1561、FAX：052-719-1561